

第3期横浜市子ども・子育て会議 第12回保育・教育部会 第31期横浜市児童福祉審議会 第12回保育部会 合同会議 会議録	
日 時	平成30年9月12日（水）午後6時10分～午後8時40分
開催場所	マツ・ムラホール
出席者	神長美津子部会長、石井章仁副部会長、尾木まり委員、新堀由美子委員、木元茂委員、天明美穂委員、長谷山景子委員、松本純子委員、樋口眞砂子委員、村田由夫委員
欠席者	なし
開催形態	公開（傍聴者なし）※一部非公開
議 題	<p>議事＜公開案件＞</p> <p>（1）横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について【子子会議】</p> <p>議事＜非公開案件＞</p> <p>（2）幼保連携型認定こども園の認可及び補助金交付先法人の審査について【子子会議】</p> <p>（3）保育所からの移行に伴う幼保連携型認定こども園の認可について【子子会議】</p> <p>（4）幼稚園型認定こども園の認定について【子子会議】</p> <p>（5）小規模保育事業の認可及び改修費補助金交付先法人の審査について【児福審】</p> <p>（6）法人の自主財源による整備に伴う小規模保育事業の認可について【児福審】</p> <p>（7）家庭的保育事業の認可及び助成金交付先の審査について【児福審】</p> <p>（8）認可保育所の分園の本園化に伴う認可について【児福審】</p> <p>（9）認可保育所の法人変更に伴う認可について【児福審】</p> <p>その他</p> <p>〔配付資料〕</p> <p>資料1 横浜市子ども・子育て会議保育・教育部会、横浜市児童福祉審議会保育部会 委員名簿</p> <p>資料2 横浜市子ども・子育て会議保育・教育部会、児童福祉審議会保育部会 事務局名簿</p> <p>資料3 横浜市子ども・子育て会議条例、横浜市子ども・子育て会議運営要綱</p> <p>資料4 横浜市児童福祉審議会条例、横浜市児童福祉審議会運営要綱</p> <p>資料5 横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について</p>
<p>議事＜公開案件＞</p> <p>（1）横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について</p> <p>○事務局</p> <p>（資料5『横浜市子ども・子育て支援事業計画の点検・評価について』に基づき説明）</p>	

○神長部会長

ただいまの御説明について、質問や御意見がありましたらばお願いいたします。

○石井副部会長

12の延長保育のところで御質問させてください。延長保育はニーズがなければ必ずしも利用されない制度だと思うので、これをもってCというふうにしちゃうのは、自己評価が厳しいのではないかと思います。もしCをつけるのであれば、ほかのところだと、こういう理由でCとしたみたいなのが明確なんですけれども、ここは不明瞭な感じかとは思いますが、お考えをお聞かせください。

○事務局

もともとこの事業計画自体が、計画策定時に目標を設定したときには、5年前にやったニーズ調査の調査結果をもとに、5年間でそのニーズを完全に満たせるように計画を立てようという発想で目標数値を策定した経緯がありました。その後、子ども・子育て支援事業の制度の導入等、保育所の利用も、11時間の標準利用、8時間の短時間と形が変わってきたということもあって、ニーズ調査をした当時の保護者の方の考えていた延長保育の時間数と、実際に標準時間内で利用できる時間数の間に、乖離があったかなという反省は、事務局内では共有しております。次期の計画策定に向け7月に実施した今回のニーズ調査では、そこのところも踏まえて、より正確なニーズが出るように試みています。まだ数字が出てこないなので、適切な数字がとれたかどうかわかりませんが、次期計画の中では、実際のニーズとの乖離は解消されてくると期待しております。

○神長部会長

そのほかにございますでしょうか。

では、私のほうから1点ですけれども、保育士の確保が難しいという利用者と実施事業者の意見・評価というのが入っていますけれども、通常の保育でさえも難しい、さらに、こういった一時預かりであったりすると、きつともっと難しさがあると思いますけれども、見通しといたしますか、今後、どういう方向で考えていらっしゃるのでしょうか。

○事務局

保育士確保については、今、例えば宿舎借り上げに対する支援を行ったり、就職面接会を行ったり、神奈川県内の政令市と中核市でつくった保育士・保育所支援センターというのがありますので、そういうところと連携して相談会をやったり、さまざまな取り組みを行い、まず、保育士として働く方を増やしていこうという取り組みを行っております。また、それとあわせて離職防止の取り組みもやっていく、その両面からやっていく必要があると思っております。今年度から、例えば施設長であるとか法人の経営者の方を対象にしたセミナーを新たに行ったり、申請があった園の方に対して個別にコンサルティングを派遣して、そこで個別の相談などに応じていくといった取り組みもやっているところです。今、新採用の新たな保育士になる取り組みと離職防止の取り組みの両面から、保育士確保に

向けた取り組みを横浜市としてやっているところです。来年度に向けて、いろいろ学生さんも動く時期であると思いますので、9月にイベントをやったりもしておりますので、そういうものを総合的にやりながら、来年4月に向けてきちんと確保していきたいと思っております。

○天明委員

とても一生懸命に事業をしていただいているのが伝わってくるなと思います。そもそものところですけれども、保育なので、親子の育ちについてもお願いしたいところです。ワークライフバランスとか、制度があるから預けなきゃという風潮がありますが、企業にも親子で過ごす時間をきちんと確保してほしいということについてお願いした上で、制度としては使えるような形が本来望ましいと思うので、その点もよろしくお願いします。

○神長部会長

ぜひそうありたいと思いますので、お願いいたします。

○村田委員

保育士の確保ということで、さまざまな手段、方法で横浜市は頑張っているということでは重々承知しています。その上で、現場サイドから言いますと、待遇の条件であるとか、さまざまな問題があります。1つは、保育時間が長くなってきているということと、それから、保育の質の向上ということで、さまざまな研修がかなりふえてきていること。もう1つは、長時間労働の中で、ローテーションでカバーしているところが大変多いと思いますが、事務量も大分ふえてきていますし、そういう点では、先ほど離職率を少なくする、減少させるというお話が出たように、保育現場の労働はやっぱり過酷です。そういうところで、やめていくという、この辺は非常に大きいと思います。ですから、保育士を確保する、採用するというだけでなく、その辺の現場の労働条件等をさまざまのところから見て、これまでも考えていただいているわけですが、今後もいろいろ考えていただきたいと思います。

私どもも園長会として独自に保育士の確保のための方策をいろいろ打っているわけですが、その中で、新卒の保育士の中で、必ずしも待遇のことよりも、どういう保育をしているのか、また、ゆったりと保育をできるのか、その辺のことに対しても大きな関心を持っているところがあるわけです。そういうことで、現場の中で働きやすい職場を実現していく、こういったこともあわせて考えていただければと思います。この辺は要望です。

○神長部会長

引き続きですけれども、保育士の確保ということは取り組んでいただきたいと思います。

そのほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

今回、いろいろ御意見等はいただきましたけれども、皆様にお伺いしたいと思います。当部会の意見としては、事務局が示されたとおり、認めるとしてよろしいでしょうか。

(異議なし)

○神長部会長

それでは、続いて非公開案件に入りたいと思います。

以降、非公開案件